

大好き鳶巣！住んでよかった鳶巣！

元気！やさしさ！しあわせあふれるまち鳶巣

出雲市 鳶巣コミュニティセンター

1 鳶巣地区の概要

鳶巣地区は出雲市の北部に位置し、地区には、鳶巣幼稚園、出雲北陵中学・高等学校、島根県立大学出雲キャンパスなどの教育施設や北山温泉、すぱーく出雲などの健康福祉施設がある。

世帯数507戸、人口1,588人（平成30年1月末現在）であり、近年、戸建ての住宅が建ちはじめ、世帯数・人口が増加しつつある。独居高齢者、高齢者夫婦世帯が増えつつあるが、高齢化率は30%と市平均レベルである。一方で、19歳以下の子どもの占める割合が20%と市内では高い地域である。

出雲市のコミュニティセンターは、地域交流活動拠点として生涯学習を展開するとともに、地域の人づくり、まちづくりを推進する拠点として位置づけられ、鳶巣は「未来へつなぐ～げんき！やさしさ！しあわせあふれるまち鳶巣～」をスローガンに様々な事業を展開している。

2 事業の趣旨

これまで地域を牽引し、「明るく住みよいまちづくり」に尽力してきた世代が高齢化する中で、鳶巣地区の喫緊の課題として、地域の良さ・伝統・文化などを伝え、次の鳶巣を担う世代・人材を育成することが挙げられる。ライフスタイルの多様化、まちづくりへの参加や参画に対する考え方の変化により、まちづくり推進にあたっての難しさも出てきている。

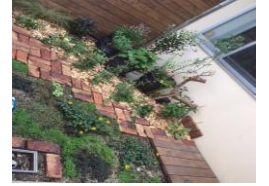
こうした課題に対し、子どもから高齢者までが地区の素晴らしさを再認識すること、次代を担う人材を掘り起こすこと、新たなリーダーを中心に地域がより深く結びつき協働することを目的として本事業を実施することで若者が自信をもって「大好き鳶巣、住んでよかった鳶巣」と言える魅力あるふるさとづくりを進めていきたいと考えた。本事業では未来・将来に繋ぐき

っかけとなる4事業を昨年度からの継続事業として取組んだ。

3 具体的な取組内容

① コミセンカフェ

昨年オープンさせたカフェの野外バージョンを若い世代



が中心になって自主的・主体的に多世代と関わりながら素敵なガーデンカフェが完成した。

② 夏・秋の鳶巣まつり

今年度も次の鳶巣を担う中学生、若者が企画の中心となって夏祭りが創りあげられた。ゆるキャラを作る話し合いから盛り上がり、



試行錯誤の結果、「くまモン」が来てくれたこと、島根県立大学生の参画、新たな地区内外の住民の協力もあり、祭りは大いに盛りあがった。

秋祭りは、中学生がボランティアスタッフとして様々な場所で活躍し、メインイベントである音楽会の司会・進行も担い、子ども・若者が積極的に参加した。

③ よさこい活動の活性化

15年前の結成当時の思いを引き継ぎ、よさこい衣装をリメイクし、子どもの意見や未来への思いを取り入れた応援旗を作成した。

④ 歴史写真集編纂とDVD作成

60歳代が中心となって地区の歴史を未来へ繋ぐ写真集の作成

を進めてきたが、試行錯誤を重ね将来を担う世代に向けたメッセージや熱い思いがこもった



歴史写真集ができつつある。

3. 評価と成果

それぞれの事業主体は、昨年を引き続き、夏・

秋の鳶巣まつり企画委員会、歴史写真集編集委員会、青少年団体の「鳶巣から世界へらぶ・ぴーす」などが行い、コミュニティセンターは事務局を担った。

コミセンカフェは、昨年カフェに関わった人が中心となりデザイン画を基本にデザインされ、知恵と力が集結した素晴らしいガーデンカフェができあがった。



地区に商店が一つもないが、コミュニティセンターにカフェができたことで、「地域の交流拠点」として、いつでも、だれでも気兼ねなく集まれる居場所づくりができた。また、カフェを通して繋がった人々が、おしゃれな親子料理教室、ハンバーグ、ソーセージづくり、野外料理などを開催した。特に男性が気軽に事業に参加し、地域に出るきっかけづくりとなった。また、カフェガーデンづくりの中心となった方は、カフェガーデンの管理に積極的に携わり、おしゃれな寄せ植え教室の講師としてコミセン事業に関わっていただけるようになった。



夏・秋の鳶巣まつりは、中学生の意見が事業に反映され、若いスタッフが中心となって企画・立案したことで、住民が事業に主体的に関わる意識が強くなると共に、ふるさと鳶巣に対する愛着が高まった。

4事業を始めるにあたって、それぞれ事業ごとに話し合いが持たれた。そして、めざす鳶巣の姿（像）や、地区の将来を担う若者が「大好き鳶巣、住んでよかった鳶巣」と言える魅力溢れるまちづくりを目指した未来へ繋ぐ事業であるという基本となるテーマを確認しながら進めた。

また、事前に行った交流会の中で中学生、大

学生から提案された夏・秋まつりへの要望が取り入れられるなど、事業に自分たちの意見が反映されたことが大変嬉しかったと、後に感想ももらった。

地域の人々が自ら動き、地域を作る基盤ができつつあると同時に、子ども達にも地域の想いを伝えることの大切さを改めて感じた。そして、「大好き鳶巣！」「住んでよかった鳶巣！」の想いと団結力、また、地域の絆が更に強まり、「やっぱり鳶巣が大好き！！」という想いも強くなっていったように感じた。

4. 今後の課題と見直し

時代の変化に合わせて目標を設け、事業を変化させていくことは、活力ある地域の持続にとって、とても大事なことであると考えている。

とりわけ、見失ってはいけないのは、地域として核となる「ひと・もの・こと」である。

今後も、地域の人々や子ども達とともに地区の課題、事業の目的を明確にし、共有していくことでコミセン職員だけでなく、地域の多くの人々が参画し、地域を作り上げていく意識を醸成したい。そして、事業で繋がった人から人への縁の輪を更に広げ、コミュニティセンター事業の根底に流れる「協働」を今後も展開していきたいと考えている。

地域づくりの拠点として一番の役割は、人々が心身ともに健康で、生涯を通じて生き生きと暮らし、住み良い地域社会づくりを推進することだと考えている。地区の将来を担う若者が、「大好き鳶巣、住んでよかった鳶巣」と言える魅力あふれるまちづくりを今後も目指していきたい。

大人も子どもも夢を持ち、地区が更に団結し、地域力向上に繋がることを期待している。



(文責:チーフマネジャー 山崎 順子)